学校通信

福島小だより

めざす児童像：よく考え　心やさしい　元気な子
第８号　令和４年１１月１日

甘楽町立福島小学校
校長　中島　剛

○小春日和に心が和む季節です　～静かに冬へ向かっています～

澄みきった高い空と、朝夕のはりつめた冷え込みと、陽だまりの暖かさに秋の深まりを感じる今日この頃です。保護者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

先月は、運動会や旅行などで、子どもたちの頑張る姿や楽しむ姿がたくさん見られました。そして１１月は、なかよし旬間（人権旬間）があります。誰もが安心・安全に学校生活を送れるように、子どもたちと職員が共に「思いやり」について考えていきたいと思います。

保護者の皆様には、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

○運動会　～スローガン「一人じゃない みんながいるから 頑張れる」～

雲ひとつない晴天に恵まれ、秋としては暑く感じる日差しを受けながら、盛大に運動会が行われました。

スローガンのとおり、子どもたちは学年の仲間を信じ、同じ団の仲間を信じて、精一杯に力を出し切り、一生懸命に演技をすることができました。団対抗戦の結果は、４点差で白団の優勝でした。どちらの団の子どもたちも素晴らしい活躍でした。

運動会を通して、子どもたちは自信をつけ、大きく成長したように思います。

↓マーチング(6年)

↓七月エイサー(1･2年)

↓Ｃｏｌｏｒｓ(3･4年)

↓南中ソーラン(5･6年)

↓親子対抗 玉入れ(6年)

○全校集会　～郷土の偉人「学校給食の父・齋藤寿雄先生」～

今から約90年前（昭和初期）のお話です。群馬県の子どもの体格は全国的に見て劣っており、病気かかりやすく運動能力も低い状態でした。当時、富岡市に住んでいた齋藤寿雄先生（医師）は、群馬県医師会の会長等をされており、「医者の仕事は病気を治すことだが、それ以上に、病気にならない身体を作ることが大切。健全なる精神は、健康な身体に宿る。健康な身体は、栄養がそのもとになる」と栄養摂取の大切さを訴えました。

そこでまず、齋藤先生は栄養改善事業に取り組みました。齋藤先生が選んだ場所は、旧福島町多井戸（おおいど）地区（今の甘楽町小川）。ちょうどいい人口と世帯数でした。県の栄養士が毎日の献立を作り、カロリー計算されたおかずを配ったことで、多井戸地区の人たちの食事は充実しました。そして、この事業に近隣地域の人たち（福島小校区の人たち）が賛同し、この事業をぜひ学校給食に取り入れてほしいと要望しました。

齋藤先生は、何度も町役場や学校、保護者を説得して回り、ついに学校給食（栄養給食）が始まりました。食材は肉と魚を町のお金で買い、野菜は学校の畑で子どもたちが作りました。栄養士の指導でカロリー計算を行ったおかずを学校の調理室で調理し、全校児童約７５０人分の給食を作りました。これが日本での学校給食の始まりです。

学校給食のお陰で、福島小の子どもたちの身体は丈夫になり、病気にかかりにくくなりました。この事業を記念して、福島小の校庭南には「学校給食の記念碑」が建っています。

「日本で最初の学校給食」は福島小学校の誇りです。全てのもの感謝して、丈夫な身体を作りましょう。

↓昭和初期の福島小の様子